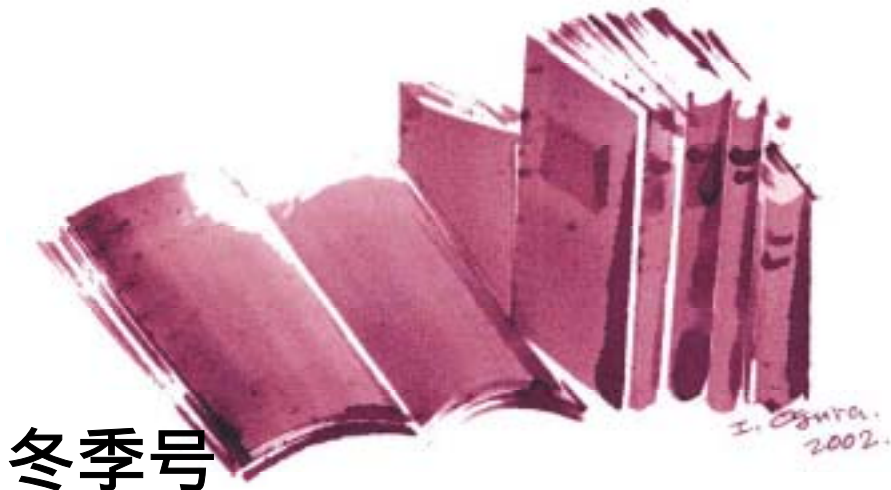


# 神戸大学附属図書館報

The Kobe University Library Bulletin Vol.12 No.4

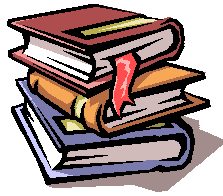


冬季号

January 2003

## 目 次

本・書物・書籍・図書・書 雑感 (副館長 濱口八朗) . . . . .	p 2
BOOKS・BOOKS 自著を語る . . . . .	p 4
奥林 康司 (経営学研究科教授)	
三上 和夫 (発達科学部教授)	
神戸大学教官著作一覧(平成14年度前期受入分) . . . . .	p 5
新電子図書館システムのご案内 . . . . .	p 6
オーストラリア大学図書館訪問記 . . . . .	p 8
附属図書館職員研修会(講習会)を開催 . . . . .	p12
Information!! . . . . .	p13
国立国会図書館が「雑誌記事索引データベース」を ウェブ上で一般に無料公開	
自然科学系図書館に図書自動貸出返却装置を設置	
秋の図書館ガイダンス(10月・11月)の結果について	
平成14年度後期試験期間中の開館時間延長について . . . . .	p14



# 本・書物・書籍・図書・書

## 雑感

濱口 八朗

「本」は英語でbook、独語でBuch、仏語でlivre(又はbouquin)、露語で、トルコ語でkitapであるが、日本では「書物」、「書籍」、「図書」、さらに「書」などのように、種々の表現がなされ、その使われ方が大体決まっている。たとえば「図書館」(明治の中頃までは「書籍館」)には「図書目録」、「書庫」、「書架」があり、郵便局では「書籍小包」を扱う。「本屋」・「書店」では「図書券」、「文庫本」から「豪華本」まで、あるいは「和書」から「洋書」まで「書籍販売」を行う。

この「本屋」には「書店」の意味のほか(建物の)「母屋」、「本館」の意味があり、「ほんおく」とも読む。これについては、以下に述べるように、今から考えると筆者の勘違いによる、子供の頃のおかしな思い出がある。

旧国鉄のプラットホームの番号(1番線、2番線・・・)の付け方について雑誌が新聞の記事で、「本屋に近い方を1番線とする」旨の記述があった。当時姫路の郊外に住んでいた私は、国鉄姫路駅の北側に位置する新興書房という比較的大きな書店を思い浮かべた。当時、子供の雑誌には、「定価」のほか(それよりやや高額の「地方売価(という表現だったと思う)」)が書いてあった。家の近くでは地方売価であったが、新興書房へ行くと定価で買えたので時々行っており、その本屋を知っていたという次第である。

つまり、駅の北側に「本屋」があるので、国鉄姫路駅は「本屋」に近い北側が1番線だと理解した。その後、実際そうなっているのを確認してなるほど思ったが、なぜそうなっているのか、国鉄と書店との関係が当時どうしても理解できなかった。

今思うと、「姫路駅の本屋(建物)」が北側にあったということであるが、大きな書店も同じ北側にあったことは必ずしも偶然ではない。駅の「本屋(建物)」は駅の本通り(繁華街)に面して立っているのが普通であり、「書店」も同様である。このように考えると、たとえば大阪は南側に書店があるから南側が1番線(あとから0番線が加わった)であり、納得できる。ただし、三宮や最近の東京駅東側のブックセンターのように逆のケースがある。

以上、誤解からきた笑い話を紹介したが、この勘違いも日本語での「本」の表現が多様なために起こった出来事である。英語ではbook store と main buildingを取り違えることはない。

ところで、本というと一般には印刷した複数枚の紙を綴じたものといってよいであろう。この「綴じた」というのが重要である。最近ある地方都市の書店で、新聞を置いていないか聞くと、やはり置いていない。「うちは本屋ですから」という。なるほ

ど、新聞は綴じていない。コストをかけてまで綴じる必要がないからであろう。本は綴じてないと困る。仮に、本にページが打ってなくて、ばらばらになった状態を想像するとよい。文芸書でいうと、小説ではほとんど価値がなくなる。俳句集では俳句そのものを鑑賞する目的であれば差し支えないが、ある俳句を探す、すなわち検索が目的であれば価値がなくなる。図鑑や絵画集、辞書も同様である。ばらばらになっても価値を失わないのは乱数表くらいのものである。それも本来の目的である乱数を発生させる場合に限るのであって、暗号解読などの目的であればその価値はなくなる。

つまり、本というものは、多くの情報を順序だてて保管するために、適当な大きさの複数枚の紙に書いて（あるいは印刷して）綴じたものである。多くの情報を入れるにはこの他、一枚の大きな紙に書いておくということが考えられる。日本に古くからある巻物はその例であろう。しかし巻物には大きな欠点がある。巻物を読んでいて、別の部分をすぐ見たいと思っても無理である。あるいは一つの巻物を複数の人が交互に読もうとすることも難しい。その点、本はどの部分でもすぐに開くことができ、検索が大変やりやすい。

1960年代半ばに神戸大学に初めてコンピュータ（当時は電子計算機）が導入されたとき、データなどの入力には紙テープであった。ところが途中で1文字入れる等の修正は大変な作業であった。巻物であるから紙を一枚追加というわけにはいかないからである。それから数年後、入力がカード方式に変わった。今度は間違った部分のカードを差し替えるだけでよいから大変楽である。ところが大変困ったことがあった。カードを計算センターに持ち運ぶ際、数百枚、数千枚のカードを落としてばらばらにしたら悲劇である。この経験をした人は少なくなかったと思う。私も一度経験がある。

このように、テープつまり巻物方式でもカード方式でも大きな欠点があるが、本においては、それらの欠点が「紙を綴じる」ことで克服されている。紙を綴じて本にすることは偉大な発明であると思う。

（はまぐち はちろう 副館長・人間科学系担当）



## 『働きやすい組織』

奥林康司著（日本労働研究機構  
2002.3）

「働きやすい」とは必ずしも楽で、のんきな仕事を意味しない。人はパンのみに働くのではなく、働くことに何らかの意義を見出そうとする。自分にとって意義のある仕事は体力を消耗し、頭を悩ませないといけない場合もある。

人が働くとき、ほとんどの場合は、何らかの組織の中で働く。しかも、組織には制約があり、働くのに窮屈である。そこで、出来るだけ自分の思い通りに動きながら、同時に組織の中で働ければよいと思う。夢のような話かもしれないが、試みる価値は有りそうである。

ヨーロッパやアメリカにおいて、1970年代から、労働を人間により適したものにする運

動が「労働の人間化」として展開されてきた。具体的にはベルトコンベアを使わずに能率的に働く方法を求めたのである。ITが普及している今日ではより人に適した働き方とはどのような働き方になるのかを実態調査や事例を交えて説明したのがこの本である。

職場での働き方が地域や家庭での行動に影響しているのではないか。その関連を都市の事例として神戸市を、農村の事例として上月町において調査している。職場で積極的に行動している人は地域生活でも積極的に行動しているという調査結果である。働きやすい組織を設計することにより家庭生活も改善されるとすれば、やはり組織を変えてみる価値は十分に有る。いつまでも夢は追いかけていたいものである。

（おくばやし こうじ 経営学研究科教授）

所蔵：人社系図 1-1-22812



## 『学区制度と学校選択』

三上和夫著（大月書店 2002.2）

公立学校の学校選択が話題になってきた。大都市の区や市町村が通学区域を弾力的に運用しようとしているのである。本書はこの問題を学区制度という視点から検討しようとしている。すなわち、地域社会と学校の関係調整の中で学校選択という事象にたいして考察を試みた。

第一部は、地域毎に学校を設置し、それを維持してきた団体としての京都市内学区の成立と存続の歴史をまとめたものである。第二部は、1970年代以降の教育制度を吟味している。義務教育終了後の数年間にわたる教育は競争による機会調整が行われてきたが、これに替わる地域システムの整備が課題となっているのである。

（みかみ かずお 発達科学部教授）

所蔵：人間系図 373.1-114

## 神戸大学教官著作一覧（平成14年度前期受入分）

平成14年度前期（4月～9月）に図書館に受入した本学教官著作を紹介します。紹介著作は2002年1月以降に出版された、単独著、共著、編著の図書といたしました。

部局名	著者	書名等	受入図書館
文学部	窪園晴夫他著	音節とモーラ（研究社 2002.4）	人文科学系図書室
	窪園晴夫著	新語はこうして作られる（岩波書店 2002.7）	人文科学系図書室
発達科学部	三上和夫著	学区制度と学校選択（大月書店 2002.2）	人間科学系図書室
	二宮厚美著	日本経済の危機と新福祉国家への道（新日本出版社 2002.2）	人文・社会科学系図書館
	和田進他編	歴史の中の日本国憲法（法律文化社 2002.4）	人間科学系図書室
法学研究科	浦部法穂他著	現代憲法講義. 第3版（法律文化社 2002.5）	人文・社会科学系図書館
	岸田雅雄著	証券取引法（新世社 2002.6）	人文・社会科学系図書館
	近藤光男著	商法総則・商行為法. 第4版（有斐閣 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	近藤光男他著	改正株式会社法 1（弘文堂 2002.4）	人文・社会科学系図書館
	黒沼悦郎著	証券市場の機能と不公正取引の規制 （神戸大学研究双書刊行会 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	根岸哲他編	経済法. 第3版（法律文化社 2002.5）	人文・社会科学系図書館
	三井誠他編	入門刑事法. 補訂版（有斐閣 2002.4）	人文・社会科学系図書館
	山田誠一著	種類物を用いた担保：担保の多様化についての一視点 （日本銀行金融研究所 2002.8）	人文・社会科学系図書館
	養原俊洋著	排日移民法と日米関係（岩波書店 2002.7）	人文・社会科学系図書館
経済学研究科	三谷直紀他編	マイクロビジネスの経済分析（東京大学出版会 2002.4）	人文・社会科学系図書館
経営学研究科	奥林康司著	働きやすい組織（日本労働研究機構 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	宮下国生著	日本物流業のグローバル競争（千倉書房 2002.4）	人文・社会科学系図書館
	金井寿宏著	「はげまし」の経営学（宝島社 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	金井寿宏著	あなたの生き方を変える（学生社 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	金井寿宏著	働くひとのためのキャリア・デザイン（PHP研究所 2002.1）	人文・社会科学系図書館
	高嶋克義著	営業プロセス・イノベーション（有斐閣 2002.7）	人文・社会科学系図書館
	坂下昭宣著	組織シンボリズム論：論点と方法（白桃書房 2002.4）	人文・社会科学系図書館
	桜井久勝著	財務会計講義. 第4版（中央経済社 2002.4）	人文・社会科学系図書館
	石井淳蔵他編	インターネット社会のマーケティング（有斐閣 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	村田修造著	日米経営比較（大学教育出版 2002.6）	人文・社会科学系図書館
	藤原賢哉他著	金融論入門（中央経済社 2002.4）	人文・社会科学系図書館
	田村政紀著	金融リテール改革（千倉書房 2002.3）	人文・社会科学系図書館
国際協力研究科	芹田健太郎著	21世紀の国際化論：兵庫からの挑戦 （兵庫ジャーナル社 2001.9）	人文・社会科学系図書館
	芹田健太郎著	日本の領土（中央公論新社 2002.6）	人文・社会科学系図書館
	香川孝三著	政尾藤吉伝：法整備支援国際協力の先駆者 （信山社出版 2002.6）	人文・社会科学系図書館
	松本充豊著	中国国民党「党営事業」の研究（アジア政経学会 2002.3）	人文・社会科学系図書館
	豊田利久他著	基本統計学. 第2版（東洋経済新報社 2002.4）	人文・社会科学系図書館
経済経営研究所	吉原英樹著	国際経営論への招待（有斐閣 2002.2）	人文・社会科学系図書館
	山地秀俊編	マクロ会計政策の評価（神戸大学経済経営研究所 2002.2）	人文・社会科学系図書館
医学系研究科	春日雅人他著	The genetics of complex thyroid diseases（Springer 2002）	医学部分館
	市橋正光著	紫外線Q&A（シーエムシー出版 2002.8）	医学部分館
医学部	宇賀昭二他著	身近な寄生虫のはなし（技報堂出版 2002.5）	名谷分室 国際・教養系図書室



## 新電子図書館システムのご案内



平成11年2月に導入された神戸大学電子図書館システムにおいて、図書館では震災文庫のデジタルアーカイブ化、新聞記事文庫の全文検索システム、住田文庫貴重資料の公開、学内研究成果として瀬戸内海藻類標本データベース、解剖学講義ノート、中川家文書のデジタル公開等、貴重なコンテンツを作成・公開してきましたが、このたび電子図書館システムの更新時期（平成15年2月）を迎え、システムが大幅に強化されますのでご案内します。

### システムの概要

#### 電子アーカイブ検索

現システムで収集が行われている震災文庫・新聞記事文庫・貴重書・学内研究成果等のデジタルアーカイブ化をさらに進めます。また、利用者のニーズにあった検索ができるよう、検索機能を強化します。

#### GISサーバ（平成15年春サービス開始予定）

震災文庫に収録されている膨大な写真を、GIS（地理情報）上から視覚的に検索可能なインタフェースを作成し、提供します。これにより震災文庫の検索に地理情報という観点が加わり、より多角的な利用が可能になります。

#### ストリーミングサーバ（平成15年春サービス開始予定）

研究や授業の過程で作成される音声やビデオのデータを収集し、公開します。公開可能なデータがありましたら、電子情報掛までお知らせください。

#### 論文収集・提供システム（平成15年春サービス開始予定）

論文やレポート・文書類を、各研究室等から web ブラウザ上の操作により自動的に PDF 変換を行い、公開することができます。このシステムにより神戸大学からの情報発信が大幅に拡大することが期待できます。また、本システムの一部で、Windows の主要な文書作成アプリケーションの文書ファイルおよび PostScript ファイルを PDF フォーマットに変換するための distiller サーバが導入されます。これにより、学内であれば Adobe Acrobat なしに PDF ファイルに変換可能なサービスとして利用することもできます。

#### SwetScan 外国雑誌目次検索システム（平成15年3月サービス開始予定）

外国雑誌約14,000タイトルの、1995年以降最新号までの目次データを学内に向け提供します。雑誌名・論文名・著者名等からの検索が可能ですから、国立国会図書館が提供する雑誌記事索引 (<http://opac.ndl.go.jp/>) と併せて利用すれば、国内外の雑誌目次情報を幅広く検索することが可能となります。

Current Contents は平成15年4月から利用できなくなります。

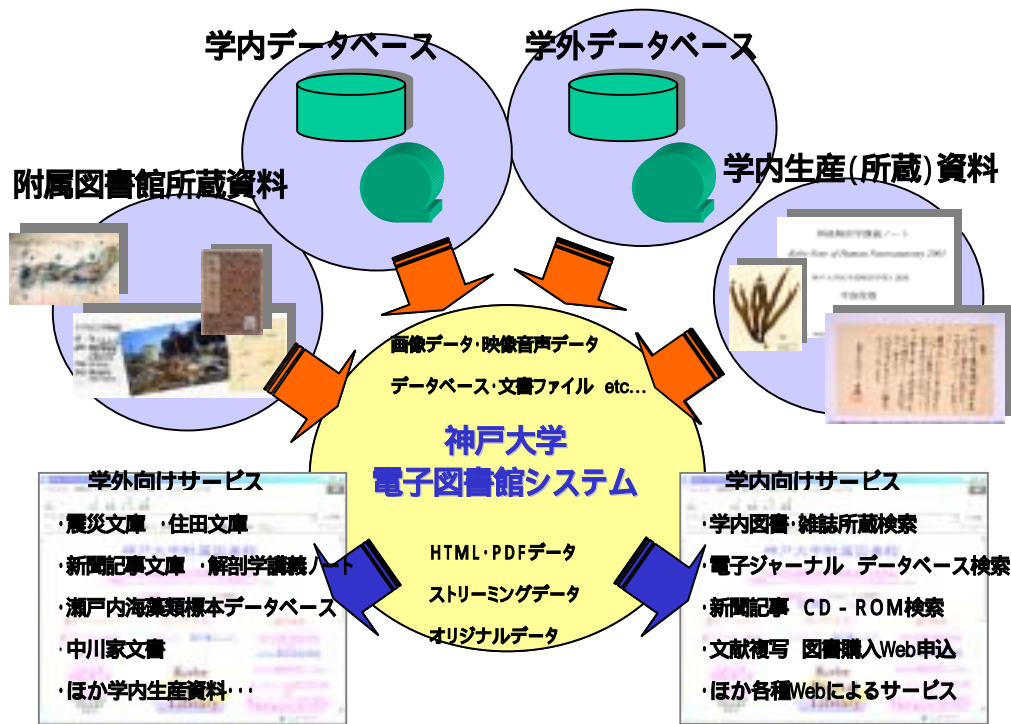
### 利用者用端末の充実

これまで古い機器が多く、苦情の多かった利用者用端末を、OPAC(目録検索)専用・CD-ROM等特定用途端末・一般端末の3種類に分類し、一般端末は全館で100台の新しい機器に入れ替えます。

この一般端末はハードディスク等駆動部分を持ちませんので故障率も低く、また、ログイン時にユーザID・パスワードを入力することにより総合情報処理センターのファイルサーバをマウントしますので、総合情報処理センターの疑似端末として利用できます。

### WWW情報検索サーバ(TITAN)の廃止

インターネット上の震災情報検索を目的に導入されていたWWW情報検索サーバ(TITAN)は、同様のサービスが学外において充実してきたため、新電子図書館システムでは廃止となります。



お問い合わせ先：

サーバや端末等、ハードウェアに関すること	情報システム掛(5311)
サービスや資料の登録等、ソフトウェアに関すること	電子情報掛(7333)



## オーストラリア大学図書館訪問記

2002.11.10 ~ 11.17

原田賢次 前田哲治

### 始めに

「オーストラリアの大学図書館事情調査」の目的で、神戸大学創立九十周年記念事業による「国際交流・地域交流にかかわる活動の助成」をいただき、11月10日～17日の1週間、オーストラリアの幾つかの図書館を訪問する機会を得ました。主に電子的資料、資料の電子化、情報リテラシー教育についての事情について報告します。

### 1. シドニー大学図書館

University of Sydney は 1850 年設立という古い大学で、図書館は 20 の図書館に分かれている。Fisher Library という人文・社会科学系の研究図書館で同時に学部学生を担当する図書館を訪れた。最初に Leona Nock 分館長に挨拶した後で、John Rodwell さんから電子的資料の利用状況について、Dianne van Sommers さんから情報リテラシー教育の状況について説明を受けた。電子ジャーナルは 10,000 タイトル以上を学内から見られるようになっていて、提供の継続が信頼できる電子ジャーナルが存在する場合は冊子体の保存はしない。授業教材の電子的提供を行っており、授業コースの必読文献を電子化・保存してネットワークを通じて公開している。受講者はそれをプリントして使用すること。日本では著作権的に問題があるように思えるが、オーストラリアの著作権法では問題ないそうである。また、学位論文の電子化プロジェクトがあるが、この館だけでなくオーストラリアの大学全体のプロジェクトで、同意された論文は電子化されて公開されている。このプロジェクトは後でメルボルン大学でも紹介された。情報リテラシー教育については医学図



書館を例にして説明があった。医学教育が EBM(Evidence-Based Medicine:根拠に基づく医療)をもとにした授業であるため、今までの研究事実を確認するために学生も種々のデータベースを縦横に検索出来ることが必要とされることのであった。オーストラリアでは情報リテラシー教育について CAUL(Council of Australian University Librarians)というところで Information Literacy Standards (<http://www.caul.edu.au/>)という 10 項目の基準が出来ていて、シドニー大学でもそれをもとに情報リテラシープログラムを定めているということであった。

### 図書館概要(2001年)

蔵書数	4,876,385 冊	図書館員	251 人
学生数	39,982 人	教官数	2,711 人
予算	約 18 億円	資料費	約 6.3 億円



Fisher Library のカウンターの前で

### 2. クインズランド大学図書館

University of Queensland は創立 75 周年ということであった。この図書館はサイバー空間(時代?)の図書館ということで Cyber Library を短くして Cybrary と称していた。Queensland



大学で教師をしておられる Furuno Yuri さんに通訳をお願いした。図書館長の Janine Schmidt さんから全般的な話をうかがった後で、図書館内を見学し、同じキャンパス内にある生物科学図書館、法学図書館まで足をのびした。各館ともカウンター近辺には自動貸出装置 (Auto Loans) が配置され、利用者用に沢山の Pathfinder が準備されていた。High Use Area の部屋やコーナーには論文などの教材をコピーし各授業コース毎にファイルしたものが沢山準備されていた。貸出期間は 2 時間ということで学生たちはコピーコーナーでそれをまた複写していた。図書館のネットワーク部門の責任者である Andrew Bennett さんから説明を受けた。数百タイトルのデータベースを ERL システムで運用しているとのこと。最近 700 台ほど新しい機種に更新したということで、今回訪問した他の図書館では利用者用パソコンは CRT ディスプレー付きだったのに、ここだけは液晶ディスプレイの真新しい機種が沢山ならんでいた。AskIT というコンピュータやソフトウェアの問題を答えてくれるサポートシステムを整備していて、これにより利用者は現場でも、電話でも、web サイトでも E-mail でも、AskIT 宛に質問をすることができるようになっている。各図書館内もカウンター回りはブルー AskIT は赤と同じ機能は統一された色使いをしていて、館内のサインひとつとっても統制がゆきとどいているように感じられた。

また、図書館の 1 階で喫茶店を運営させてお



University of Queensland Library のカウンター付近

り、利益の 1 割は図書館に入るとのことであった。お金の話になったついでだが、オーストラリアの大学図書館では返却が遅れると延滞料を取ることが普通であった。

図書館概要(2000 年)

蔵書数	2,049,090 冊	図書館員	251 人
予算	約 18 億円	資料費	7.7 億円

### 3 . オーストラリア国立大学図書館

Australian National University(ANU)は学生数 10,000 人程度と Sydney 大学や Queensland 大学と比べると小さく、学内は静かな雰囲気にも包まれていた。図書館は大きなものが 4 つ (JB Chifley building (Social Science & Humanities), WK Hancock building (Science), RG Menzies (Asia and Pacific Studies), Law Library (Law)) と幾つかの科学関係の分館 (Medical Sciences, Earth Sciences, Physical Sciences, Chemistry, Astronomy) に分かれている。このなかで Asia and Pacific Studies を担当する R.G. Menzies を訪問した。R.G. Menzies という方は戦後長い間オーストラリアの首相を勤めた人で館内には像が記念に飾ってあったが、オーストラリアでは ANU に限らず人名をつけた建物が多かった。この日本関係の資料を担当している Takagi Toshio さんに案内と通訳をして貰った。ANU と国立図書館でオーストラリア全土にある日本語文献の 8 割を所蔵しているとのことであった。

Sue Kosse Acting Director(館長代理)から全般的な説明を受けた後、Chris Edwards さんが



Menzies の頭像とともに

ら現在進行中のプロジェクトとして中華人民共和国の文化大革命時代のオリジナル資料の電子化の話伺った。ここでも教材の電子化が進められており 2001 年には 1,601 の論文や図書の一部が電子的に保存され、なんと 284,974 回参照されたということであった。神戸大学でも自宅から電子ジャーナルが見られないかという利用者からの質問があるが、ここでは学外からの電子ジャーナルの利用を図るために認証機能をもったプロキシサーバを運用していた。また、図書館業務システムは innopac で動いているとのこと。日本では早稲田大学がこのシステムを使っていると逆に教えられてしまった。最近オーストラリア政府が学内における学外者の Web の利用を制限する規則を作ったので、ID がないと Web が使えないとのことであった。情報リテラシー関係では沢山のプログラムが準備されていて、その中には Microsoft Office や Dreamweaver のようなものもあった。外部から講師を呼ぶ場合には受講料が要求され、図書館からの参加者は半額が補助されるということであった。

この大学では情報関係（図書館を含む）とコンピューターセンター、大学の事務関係、デスクトップサービス関係等が合併し一つの大きな Division of Information という組織になっているとのこと、日本の情報基盤センターのようなことを聞くことになった。後で訪問したメルボルン大学でもこの Division of Information が出来ていて情報リテラシー教育の多くはこの組織として行っているようだった。

#### 図書館概要

蔵書数 約 2,000,000 冊 図書館員 132 人  
予算 10 億円

#### 4 . オーストラリア国立図書館(NLA)

National Library of Australia (NLA)ではこのアジア部門で日本関係の司書をしている Shinozaki Mayumi さんに通訳をお願いした。情報テクノロジー部門の副館長をしている Warwick Cathro さんに NLA の資料電子化の話をつかかった。Kinetica という共同目録と

ILL をサポートする書誌ユーティリティが動いているが、日本と違って公共図書館も大学図書館もこれを利用していた。資料電子化の面では PictureAustralia という古い写真、絵はがき、



National Library of Australia の正面で

地図、楽譜、手稿を検索・表示するシステムを運用している。このシステムはそれぞれのデータはオーストラリア各地の図書館にあって、検索をするとデータを集めてきて表示してくれる。また、オーストラリアの初代首相バートンに関係した資料で公文書館の所蔵でない手紙や日記などを電子化しているとのことであった。情報サービス部門の Fran Wilson さんからは NLA でも冊子体の利用が減少し、Web の利用が増えていること、レファレンスも窓口での問い合わせや電話での問い合わせが減り、E-mail での問い合わせが増えているとのことであった。新しい試みとしてチャットを利用した AskNow! というレファレンス・サービスを始めた。オーストラリアの国土の広さからくる時差を利用して午前 9 時から午後 7 時まで長時間受付可能にしているそうである。1 年の開館日数はなんと 362 日、クリスマスを除いて年中開館しているというのには驚いた。日本の NDL が

年間3分の1以上も閉館しているという私も東京へ行かなくちゃと戯けておられた。

NLA では NDL の雑誌記事索引に当たる **APAIS : Australian Public Affairs Information Service Bulletin** を編集しているので、その検索を見せてもらったならなんと、WebSpirs が起動してきたので驚いた。検索システムを自分の所で作るにはこだわらず、外部に良いものがあればそれを利用しようということらしい。その後、館内を案内してもらった。電子化された地図のデモや古い地図や新聞原紙を保存してある所を見学した。ここでもすでに新聞原紙を製本するのは中止しており、最近では原紙を数日分ずつプラスチックの透明な箱に入れて保管していた。また、オーストラリアへの乗船名簿のマイクロフィルムがそろっているので、自分の先祖がいつどこからやって来たか自分のルーツを探しに、オーストラリア全土から NLA にやってくるそうである。そのために非常に沢山のマイクロフィルム・リーダー・プリンターが整備されていた。また、NLA には神戸に住んだ **Harold S. Williams** の文書が保管されていて立派な冊子体のガイドが作成されていた。

## 5 .メルボルン大学図書館

University of Melbourne はシドニー大学と並んで古い大学で、気候が日本と似ているためか学内の雰囲気も日本の大学を思わせるところがあつた。人文・社会科学系の図書館である **Baillieu Library** を訪れた。ここでは情報アクセス部門のマネージャの **Dorothea Rowse** さんと科学および医学部門の **Collection Management Librarian** の **Mary Ann Bibson** さん、東アジア収書部門の日本研究担当の **Michelle Hall** さんから電子的資料の提供状況、電子化、情報リテラシー教育の説明を受けた。**Buddy** という on-line resources を調べるのに便利な検索システムを紹介された。また、ここでも **Microsoft Office** や **EndNote** の使い方というような有料、無料の **UP Skills Program** が非常にたくさん開催されていて、期限を切って **E-mail** で申し込むようになっていた。文献検



Baillieu Library の玄関

索の方法のような図書館関係は無料だったが、中には博士論文の書き方の様なものもあり、税込 30A\$とあつた。その後で東アジア収書部門を見学した。ここのホームページでは **NACSIS Webcat** や **NDL Web-OPAC** へのリンクが当然のように存在し、神戸大学図書館のホームページがちゃんと表示され、日本語で図書検索が出来たのには感心した。

## 終わりに

外国の先進的な図書館を視察できたことは短期間ではあつたが非常に刺激的な経験であつた。各大学で説明して下さった方々、通訳をしていただいた方々、お世話になった皆さんにお礼を申し上げます。また、忙しい中こころよく送りだして下さった同僚図書館員の皆さん有り難うございました。

(はらだ けんじ 自然科学系情報管理掛長)

(まえだ てつじ 情報リテラシー掛長)

<関連 URL>

シドニー大学図書館

<http://www.library.usyd.edu.au/Home.html>

クインズランド大学図書館

<http://www.library.uq.edu.au/>

オーストラリア国立大学図書館

<http://anulib.anu.edu.au/>

オーストラリア国立図書館

<http://www.nla.gov.au/>

メルボルン大学図書館

<http://www.lib.unimelb.edu.au/>



## 附属図書館職員 研修会（講演会）を開催



平成14年11月14日、「大学図書館の点検・評価」をテーマに、平成14年度附属図書館職員研修会（講演会）を開催しました（会場：自然科学系図書館）。講師には筑波大学知的コミュニティ基盤研究センターの永田治樹教授を迎え、図書館職員約30名（神戸商船大学、兵庫教育大学を含む）の参加がありました。

図書館の点検・評価は国立大学法人化に向けて最重要事項の一つであり、国立大学図書館協議会でも「大学図書館における評価指標報告書」が作成されたばかりです。また、本学図書館では平成13年に永田研究室（当時・図書館情報大学）の全面協力のもとに「図書館サービス品質調査」を実施しています。

研修会ではまず、永田教授から図書館評価の基本的枠組みと国際的な各種評価指標について講演がありました。適切な業務改善につなげていくためには、把握しやすいインプット・アウトプット指標に加えて、顧客（利用者）満足度という形で表れる成果指標を正しくとらえる必要がある点が、特に強調されました。

続いて、上述の「サービス品質調査」集計結果について、講師による分析、図書館職員からの発表・質疑が行われました。この調査は、サービス評価指標"SERVQUAL"に従って学生・教官・職員にアンケート調査を行ったものです。講師からは、日本の大学図書館では、顧客の「期待値」が低いとともに現行サービスの「認知値」がさらに低いこと、顧客の評価と職員の評価にずれが見られること、などの特徴があり、本学の調査も同様の傾向であるとの指摘がありました。また、その中で医学部分館に対する教官の評価が高いのが目を引くとの指摘もありました。

集計結果を読み込んでいくと、学生と教官で期待値の高いサービスに違いがあること、各図書館室別に見ると期待値・認知値とも差異が見られることなど、日常的に利用者と接している図書館職員にとって興味深い内容で、活発な質疑が行われました。（企画掛）

## Information!!

### 国立国会図書館が「雑誌記事索引データベース」をウェブ上で一般に無料公開

国立国会図書館関西館の開館にともない「雑誌記事索引」が11月から一般に無料公開されました。採録期間も1948年までさかのぼって検索可能です。もちろん学内外からもウェブ上で利用することができます。これにともない現在学内サーバで公開していますCD-ROM版「雑誌記事索引」は契約が切れる3月末でサービス中止になります。今後は国立国会図書館のホームページからご利用下さい。

(<http://opac.ndl.go.jp/>)

### 自然科学系図書館に図書自動貸出返却装置を設置

平成15年4月から自然科学系図書館に図書自動貸出返却装置が設置されます。設置場所は2階カウンター横の廊下です。これにより図書貸出を自分ですることができ、カウンターで待つ必要はありません。ただ返却については従来どおり、カウンターの返却箱に入れてください。

### 秋の図書館ガイダンス(10月・11月)の結果について

自然科学系図書館研究閲覧室を会場に、今回から初めて予約制を取りいれて雑誌記事索引や Current Contents等のガイダンスを行いました。予約者数59名、実際の参加者総数は52名でした。ガイダンスで使用した資料を図書館ホームページに掲載してありますので参加されなかった方もぜひご覧下さい。

(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/guidance/>)



## 平成14年度後期試験期間中の開館時間延長について

今年度の後期試験期間中、特別開館を実施します。各館室の特別開館期間と時間は次のとおりです。

館室名	特別開館期間	開館時間	
人文・社会科学系図書館	1/30(木)～2/13(木)	平日	9:00～21:00
自然科学系図書館	1/28(火)～2/12(水)	平日	9:00～21:00
		土曜	12:30～17:00
		日曜	12:30～17:00
人文科学系図書室	1/30(木)～2/13(木)	平日	9:00～21:00
人間科学系図書室	1/28(火)～2/5(水)	平日	9:00～21:00
国際・教養系図書室	1/28(火)～2/5(水)	平日	9:00～21:00

## 附属図書館日誌(2002年10月～12月)

- 10.2 平成14年度第3回附属図書館運営委員会
- 10.7 ｽﾀｰﾀﾞｰｽ共同構築事業説明会(京都大学)
- 10.29 学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会(文部科学省)
- 10.30 国立大学図書館協議会高度情報化特別委員会(東北大学)
- 10.31 平成14年度第3回国立大学図書館協議会理事会(東北大学)
- 11.13 附属図書館長・副館長・分館長懇談会
- 11.14 平成14年度附属図書館研修会(講演会)
- 11.27 - 29 医学図書館研究会・継続教育コース(大阪大学)
- 12.4 平成14年度第4回附属図書館運営委員会
- 12.5 - 6 第15回国立大学図書館協議会シンポジウム(西地区:九州大学)
- 12.13 平成14年度近畿地区国立大学図書館事務部課長会議(神大会館)
- 12.24 将来構想専門委員会附属図書館検討小委員会

【編集後記】 Webによる図書館サービスもずいぶん進み、実際に足を運ぶのは予約の図書や複写物を取りに来る時だけという方も増えてきました。でも場所の魅力というものは、まだまだ捨て難いのではないのでしょうか。居心地のいい図書館を作っていけたらと願っています。

神戸大学附属図書館報 Vol.12 No.4 (通巻第48号) 2003(平成15)年1月1日発行

[編集・発行]神戸大学附属図書館 神戸市灘区六甲台町2-1(〒657-8501) 電話(078)881-1212(代)